

各 位

上場会社名	日本精密株式会社
代表者	代表取締役社長 岡林 博
(コード番号	7771)
問合せ先責任者	執行役員 田崎 政己
(TEL	048-225-5311)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年10月31日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,346	232	187	109	10.45
今回発表予想(B)	5,003	144	150	43	4.08
増減額(B-A)	△343	△88	△36	△66	
増減率(%)	△6.4	△61.0	△19.6	△60.5	
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	3,980	△176	△190	△735	△98.44

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,407	△21	37	△81	△7.74
今回発表予想(B)	3,159	△36	58	△68	△6.45
増減額(B-A)	△248	△15	21	13	
増減率(%)	△7.2	—	57.2	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	2,893	△154	△90	△617	△82.72

修正の理由

(連結)

売上高は、時計バンド事業では、急激な消費後退の影響を受け欧州大手高級時計メーカーへは145百万円の減少に対し、国内大手時計メーカーへは経営資源の積極投入の成果により香港支店及び子会社ベトナムでの新製品の大幅受注増加につながり362百万円の増加があり合計217百万円の増加となりました。メガネフレーム事業では、国内市場での受注拡大を計画しておりましたが、消費後退の影響を大きく受け本社既存メガネ部門での298百万円の減少、子会社村井で155百万円の減少があり合計453百万円の減少となりました。応用品事業では、主に静電気除去器関係で107百万円の減少となりました。これらにより前回予想を343百万円下回る見込みです。

営業利益は、売上高減少による228百万円の減少と販売費及び一般管理費の減少139百万円があり、前回予想を88百万円下回る見込みです。

経常利益は、営業利益の減少88百万円と、為替差益7百万円、金利スワップ評価益10百万円等による営業外収益の増加14百万円と支払利息の減少等による営業外費用の減少37百万円があり、これらにより前回予想を36百万円下回る見込みです。

当期純利益は、経常利益の減少36百万円と、固定資産除却損9百万円、遅延損害金26百万円等があり、これらにより前回予想を66百万円下回り、43百万円となる見込みです。

(個別)

売上高は、時計バンド事業では、急激な消費後退の影響を受け欧州大手高級時計メーカーへは130百万円の減少に対し、国内大手時計メーカーへは経営資源の積極投入成果により香港支店での新製品の受注増加につながり277百万円の増加があり合計147百万円の増加となりました。メガネフレーム事業では、国内市場での受注拡大を計画しておりましたが実現が遅れ310百万円の減少となりました。応用品事業では、静電気除去器関係の減少により84百万円の減少となりました。これらにより前回予想を248百万円下回る見込みです。

営業利益は、売上高の減少による102百万円減少と販売費及び一般管理費の減少87百万円等により、前回予想を15百万円下回る見込みです。

経常利益は、営業利益15百万円の減少と、為替差益5百万円及び金利スワップ評価益10百万円等営業外収益の増加14百万円と、支払利息等営業外費用の減少21百万円があり、前回予想を21百万円上回る見込みです。

当期純利益は、経常利益21百万円の増加と、特別利益として子会社の業績向上による同子会社に対する貸倒引当金の

繰戻し益19百万円(ベトナム14百万円、村井5百万円)の増加、特別損失として遅延損害金26百万円の計上等により、前回予想を13百万円上回り68百万円の当期純損失となる見込みです。

(注)上記予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以 上